

平成29年4月5日（水）

平成29年度 第一学期始業式あいさつ

秋田県立本荘高等学校長 今井 智幸

未来へのまなざしが、今を輝かせる

「未来へのまなざしが、今を輝かせる」ということを一緒に考えてみたいと思います。

3年生の運動部・文化部の皆さんは、この春休み全県総体や夏の甲子園予選、各種コンクールや大会での活躍を期して、どの部も遠征や練習に励んでいたことだと思います。

本校の各部の今年度の活躍を心から期待しているのは、私や先生方、皆さんのご家族だけではなく、同窓会や地域の方々など、たくさんの方たちがいらっしゃると思います。

この3月まで赴任していた角館高校での経験を、ちょっとお話してみたいと思います。角館高校硬式野球部は、この4年間で決勝進出が3回という強豪校に成長しました。3年前の統合初年度、平成26年度には、甲子園初出場を果たしています。仙北市は、同じ秋田とはいえ、ここ由利本荘市と違って雪深い地域です。野球部の生徒は、3月上旬あたりから普段練習するグラウンドばかりでなく、陸上競技場の除雪にも励んでいる姿がよく見かけられました。私が学校から帰る時、町をランニングしている野球部員は、車で帰宅する私を見かけると、立ち止まって挨拶するほど礼儀正しく、授業にも積極的・真剣です。国公立大学にも数名が合格しています。

昨年の夏の秋田県予選では、8回表まで大曲工業に7-3でリードしていましたが、8回裏に大量5点を奪われ、7-8で敗れてしまいました。そんな本当につらい経験乗り越え、秋の東北大会に出場し、1回戦では日本ハムファイターズの大谷翔平を輩出した花巻東高校に勝ちきりましたが、2回戦で仙台育英高校に敗れてしまいました。

今年こそはトリベンジを誓い、練習に一丸となって取り組んでいます。本校の硬式野球部員も同じ思いで頑張っていることだと思います。

未来への確かなまなざしの下、今を懸命に努力しています。そんな県内各校の切磋琢磨が、秋田県のレベルを押し上げていくのだと思います。

今年、本校が角館高校と対戦することになるかもしれません。しびれるような緊迫した試合を、あるいは、もつれ競り合う試合で、ぜひ角高に勝利して欲しいと思います。そんな苦しい戦いでこそ、ひるまず冷静に底力を発揮する「本物の力」をめざして、日々の努力を大切にしたいです。

高校生は特に、未来へのまなざしによって、今を充実させるということが大切だと思います。努力はつらさを伴う時がありますが、実はとても輝いている青春の時間です。

引退がかかる大会へのまなざし、センター試験・個別試験を受験する自分へのまなざし、自分の卒業式当日へのまなざし、あるいは将来、どのように仕事に励み、社会とかかわるかへのまなざし、そんなまなざしを大切に今を真剣に生きて欲しい、という願いをして挨拶いたします。